



八中だより



第7号

令和8年7月1日

府中市立

府中第八中学校

**7月1日は
国民安全の日**

〈在籍生徒数〉 一学年231名、二学年249名、三学年218名
全校生徒数698名
〈学校住所・電話番号〉
〒182-0035 府中市四谷一丁目二八二七
電話 〇四二(三六四)一八八一

★地域の方から中学生の皆さんがボランティアに進んで参加してくれています、というメッセージが届いています。

『青春ユースホステルの思い出』

校長 高汐 康浩



「あをによし 奈良の都は 咲く花の にほふがごとく 今盛りなり」毎年、修学旅行の時期に、この歌を思い出します。今から、四十七年前、中学三年生だったころ、修学旅行の事前学習で、担任の先生が教えてくれた歌です。聞いたことがある人かと思いますが、その当時、中学生だった私は、単純に奈良の地が花で美しく飾られているようすを想像したものです。実際に奈良を訪れると奈良の中心部以外は、田畑が広がっています。本当に静かな町並みでした。その昔、都が栄えていた姿はどこにもありませんでした。しかし、華やかではないにしろ、法隆寺、東大寺、奈良公園などを訪ね、これを創建した当時のお寺で働く人や住んでいた人などに思いを馳（は）せました。修学旅行では、たった一日の見学でしたが、それではもの足りず高校一年生の夏休みに友人たちと一緒に関西方面を再び訪ね、時間をかけてじっくりと奈良県内を歩き回ったことがついこの間のように思い出されます。

今回のテーマは『青春』です。私の場合、「旅」に明け暮れた青春時代でした。実は、今でもそれは続いています。当時、若者向けに流行（はや）っていたのが、『ユースホステル』を使った旅行でした。まず、ユースホステルについて説明しましょう。ユースホステルとは、若者をターゲットにした宿泊施設です。宿泊料金はとても安く当時の一泊の料金は食事付きで二千円位でした。そして、どこのユースホステルにも「ペアレント」と呼ばれていた管理人がしっかりと運営しているため、安心して泊まれる施設でした。その他、ユースホステルには大きな魅力がありました。客は相部屋に宿泊するのです。ですから、いろんな人と出会うことができたのです。国内は全都道府県、そして、世界各国にたくさんのユースホステルがありました。

高校一年生のときの関西方面への旅行は、私にとって初めて家庭を一人で離れる大冒険でした。そのときの「わくわく・ときどき」の感覚は

今でも鮮明です。初めて利用したユースホステルが兵庫県の山奥にあった「無動寺（むどうじ）」というお寺でした。えっ！お寺？と思ったかもしれませんが、けっこう多くのお寺がユースホステルを経営していました。宿泊している若者は高校生や大学生が多く夕ご飯が終わるとペアレント主催のミーティングがありました。ミーティングでは自己紹介を行い、皆で歌を歌ったり、踊ったり、ペアレントによるその土地の伝統や文化に関するお話を聞いたり・・・とても盛り上がりしました。

北海道の網走のユースホステルに宿泊したときには、カナダのバンクーバーからの旅行者と相部屋になりました。すぐに打ち解けあい、それぞれの学校のこと、友だちのこと、お互いの文化の違いのことなど一晩中話になりました。当時は、電子メールなどはありませんし、国際電話はとも高かったもので、郵便でやり取りをしました。やがて、私がバンクーバーを訪れることになりました。バンクーバーでは、自動車でいろいろな場所を案内してくれました。バンクーバーでの経験の中で一番驚いたのは何だかと思いませんか？それは、カナダの若者の一回の食事の量でした。バンクーバーでは、その知り合いの友人とともにレストランでのランチを誘われました。そこでは、普段私が食べるランチの何倍もの量をぺろりと食べてしまうのです。とても驚きました。

今日、学校の教育活動で「プログラミング的思考」をはぐくんできています。何十年も前のことですが、修学旅行という生活経験の中で、自ら課題を見つけ、その課題（旅行費用を抑える、友人を誘うなど）を解決するために、さまざまな試行錯誤を行い、失敗や問題があればさらに試行錯誤を行いながら、自ら熱い思いをもって乗り越えました。その活動の中から、さらに高い目標を見出していき、まさに、コンピュータはない時代でも「プログラミング的思考」を行ってきたのです。ノーデバイス・プログラミングとも呼びましょいか・・・青春時代には「プログラミング的思考力」がぐんぐん伸びるのです。



おたけせ重要 発見 対話 授業のようす 活躍する八中生

【敬称略】

★保健委員会★

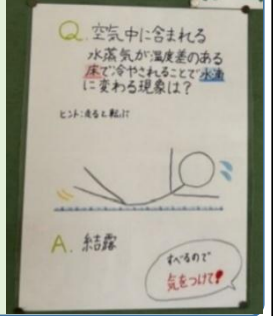
梅雨の時期の注意の呼びかけポスターで「理科」で学んだ知識を活用したポスターを作成しました。授業での学びが発揮されています！

★女子バレーボール部★

令和8年 第9ブロック選手権大会 府中市予選 第6位

★吹奏楽部★

部員の皆さんが青少対サマーフェスティバルの素敵なチラシを作成



第一学年の英語の少人数の授業（大島主任教諭）では、生徒たちは自己紹介ビデオの作成に取り組みました。どのようにならオードイエンズに話の内容がしっかりと伝わるのか？どのような表情やしぐさでスピーキングしたらよいのかなど、対話をとおして表現の仕方を工夫しました。ビデオ録画も何度も失敗を繰り返しながら一番よいビデオがどれなのかを決定しました。どの生徒もスピーキングを楽しく行いました。



思春期は、心身ともに大きく成長する時期だからこそ、悩みをもつことがあります。悩みの抱えてしまっているときに、相談できる相談窓口はたくさんあります。『安心♡♡』としてくださいます。『不安や悩みがあるとき』は、一人で悩まず、相談しよう。相談するとうるさくなるの？』『保護者向け相談窓口』と『TOKYOほっとメッセ』チャンネルを紹介し、活用して、またはいくらでも二次元コードから、またはURLをクリックすることでアクセスできます。



<https://www.fuchu-tokyo.ed.jp/fuchu08c/02gaiyou/15108533456459d8e4a01a420230509142348.html>
<https://ijime.metro.tokyo.lg.jp/message/>

Must Read!

★『国民安全の日（七月一日）に避難訓練を考えよう！』

昭和三十五年に七月一日を「国民安全の日」と定められました。国民安全の日には、一人一人が日常生活のあらゆる面において、施設や行動の安全について反省を加え、その安全に留意し、これを習慣化する機運を高め、安全を脅かす災害の発生防止を図るための行事などを行うこととされています。（内閣府事務次官依頼）

これを機に、生徒指導部では、これまでの避難訓練の問題点を整理して見直しを行いました。そのコンセプト（一貫する考え方）は、生徒の安全行動の力を高めることと、教職員の安全管理能力と行動力を高めることです。

六月十一日（木）には、見直した訓練計画に基づき、校内での地震発生を想定した避難訓練とあわせて登下校中の避難訓練を実施しました。避難行動は、場所（環境）によって違います。人によっても違います。訓練前には生徒一人一人が登下校の通学路の実地踏査（じっちとうさ）（危険個所の抽出）を行い、訓練当日には、物が「落ちてきそう・倒れてきそう・移動してきそう」のキーワードを活用して一人一人が、『適切な避難行動』について考えたり、情報交換を行ったりします。ご家庭でもぜひ話題にしてみてください。

★地域に不審者が出没しています！注意しましょう！！★

《生徒の皆さんへ》

・登下校はできるだけ複数で ・人通りの少ない道避けて

・怪しい人には近づかない ・怪しい人を刺激しない

・おかしいな？怪しいな？と感じたら、被害に遭ったら、

《ご家庭の皆さんへ》

・日頃から、家庭で防犯について話し合います。あわせて、子ども緊急避難の家の場所、交番の場所、万が一のときに駆け込める場所（文化センター、コンビニ、商店など）を確認しましょう。防犯ブザーをもつ場合は、定期的に電池切れのチェックをしましょう。事件・事故に遭遇した場合は、できるだけ早く一〇通報をお願いします。

まずは一〇通報



●七月の主な予定○●

四日（土）青少対サマーフェスティバル 六日（月）生徒朝会

八日（水）セーフティ教室 修学旅行（三年）十日

十一日（土）生徒会リーダー研修会 十六日（木）給食終了

十七日（金）一学期終業式 二十一日（火）三者面談

・七月の生活目標

・一学期をしっかりと振り返り二学期につなげよう

7月1日は国民安全の日

